

ほか 9 名.

1. 場所 鉄鋼協会会議室

2. 研究発表

(1) 「 $\text{CaF}_2\text{-MgF}_2$  系融体の密度, 表面張力, 電導度」

共通イオンを含む 2 元系スラグの一部として,  $\text{CaF}_2\text{-MgF}_2$  系融体について, 密度をアルキメデス法で, 表面張力を最大泡圧法で, 電導度を交流 4 端子法で測定した結果を示し, その結果をもとに融体構造を論じた.

この他下記 2 件について発表と討論が行なわれた.

(2) 「1450°C における  $\text{CaF}_2\text{-CaO-SiO}_2$  系の平衡  $\text{SiF}_4$  圧と状態図」

(3) 「ESR 浴-鋳型間の伝熱挙動」

.....

応力腐食割れ部会

第 15 回部会 開催日: 7 月 19 日. 出席者: 久松部会長, ほか 15 名.

1. 開催場所 鉄鋼協会会議室

2. 概要 本会議では, 下記 2 論文について討論を行なった.

(1) Development of Strain Rate Testing and Its Implications by R. N. Parkins

応力腐食割れ試験に用いられる SSRT 法 (Slow Strain Rate Testing) を他の試験法と比較検討し, 各荷荷方法の有用性と限界とを確認した.

(2) Stress Corrosion Cracking and Hydrogen Embrittlement; Differences and Similarities by R. M. Latanision 他

現在, 応力腐食割れ (S. C. C.) と水素ぜい化 (H. E.) とを区別する一般的方法はないが, 荷重印加法, 破

面観察などの方法により, 徐々に区別が可能となっている現状についての討論があつた.

第 16 回部会 開催日: 10 月 6 日. 出席者: 春山副部会長, ほか 19 名.

1. 開催場所 経団連会館 1102 号

2. 概要 第 15 回部会に引続き, この会議でも, 前回提出の 2 論文をもとに討論を行なった. 討議テーマは下記の通りであつた.

- (1) 負荷方法と SCC 挙動の関係
- (2) Ductile な材料への破壊力学の適用限界
- (3) HE と SSC の特徴と差異
- (4) 環境の局部変化と試験溶液の選択

.....

高温変形部会

第 7 回部会 開催日: 11 月 20 日. 出席者: 田村部会長 ほか 27 名.

1. 講演

- (1) 純鉄および合金鋼の高温変形挙動
- (2) 水素脆性と動的復旧組織
- (3) 鋼の高温域における変形特性
- (4) 焼結鋼の熱間変形について
- (5) ステンレス鋼 CC スラグの熱間加工性改善について

2. 協議事項

(1) 54 年度より部会を年 5 回とする. うち 1 回は研究経過報告を行なう.

(2) 各委員の研究経過報告を指定用紙 1 枚にまとめる. 次回部会で報告する.

(3) 最終報告をまとめやすくする上で「柱」を作り各柱にリーダーをおき各委員の研究を見守つてゆくようにする.

(4) 54 年 2 月 14 日にシンポジウムを行なう.

昭和 53 年度石原・浅田研究助成金交付研究決定のお知らせ

石原・浅田研究助成金の交付について本誌第 8 号会告により候補研究を募集し多数の応募がありました, 研究委員会での選考を経て下記の通り交付研究を決定しましたのでお知らせします.

(1)  $\text{CaO-SiO}_2\text{-FeO}_x\text{-MgO}$  四成分系の 1600°C における相平衡

東北大学選鉱製錬研究所助教授 水渡 英昭君

(2) 溶鉄の電子電導脱酸

京都大学工学部助手 岩瀬 正則君

(3) 液体金属中浸漬ガスジェットの音速領域における挙動

名古屋大学工学部博士課程 小沢 泰久君

(4) Fe-Cr 合金の逆変態過程の Kinetics とくにフェライト/オーステナイト界面の

移動に関する研究

熊本大学工学部助教授 千葉 昂君

(5) Ni-20Cr 合金の高温クリープ特性に及ぼす雰囲気の影響

東京工業大学工学部助手 松尾 孝君